

実践事例1 第3学年 「もの売るしごと」

1 小单元名 ものを売るしごと

2 小单元について

本小单元「もの売るしごと」は、「学習指導要領」第3学年の目標(1)の

地域の産業や消費生活の様子，人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにするようし，地域社会の一員としての自覚をもつようにする。

内容(2)の

地域の人々の生産や販売について，次のことを見学したり調査したりして調べ，それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。

を受けて設定されている。

また，指導する主な事象としては、

- ア 地域には生産や販売に関する仕事があり，それらは自分たちの生活を支えていること。
- イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などとのかかわり。

である。ここでの学習内容は、「地域にあるスーパーマーケットやコンビニエンスストアを調査したり，そこで働いている人にインタビューをしたりして，販売する側の工夫を考え，自分の買い物の仕方を見つめ直す。」ことである。

つまり，学習指導要領では，地域の販売に関する仕事を取り上げて，販売の仕事の存在や販売の仕事と自分たちの生活とのかかわり，販売の仕事における特色，国内の他地域とのかかわりなどについて，見学や聞き取り調査を通して具体的に調べ，地域の販売に携わる人々は，客のニーズを把握し商品を取りそろえるなどの工夫をしているということを考えることができるようにすることをねらいとしている。

3 研究テーマ 「言語活動の充実を図る学習指導の在り方」とのかかわり

児童は「知識基盤社会」の中で生きていくことになる。この「知識基盤社会」とは，新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会」(中央教育審議会答申・平成20年1月)と定義されている。

これからの「知識基盤社会」では，主体的に学習に取り組み，基礎的な知識及び技能を習得し，それらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力等を育成しなければならない。これらの学力を総合的に身に付けさせるためには，言語活動を充実させる必要がある。

しかしながら全く新しいことに取り組むのではなく，その趣旨を考慮すれば，これまで社会科で大切にしてきた資料を活用する力や考える力，判断する力，表現する力を従前以上に強調して取り組むことが大切であると考え。そして，それらを獲得するだけでなく，実社

会で活用できるような力にまで高めていかなければならない。

そこで、本小単元では、つかむ段階で地図やグラフなどの資料を効果的に活用し、学習問題をつくる。そして、調べる段階では、スーパーマーケット、コンビニエンスストアを見学、調査し、販売者の様々な工夫について知る。その上で、消費者の買い物の工夫と比較、関連付けさせ、自分たちの生活に生かせるようにする。最後に、生かす段階では、それぞれの店のよいところを発見し、家の人などに知らせる活動を取り入れる。これらの活動を通して、商品や店を選ぶなど、自らの消費活動を考えさせ、地域社会の一員として社会に参画することにつなげていきたい。どの段階においても、個人学習の時間と、グループ学習の時間、学級全体での学習の時間を設定し、話し合い活動を重視し、言語活動の充実を図る。

4 小単元の目標と評価規準

身近な販売に関する仕事は、自分たちの生活を支えていることや他地域との関連があること、その仕事に携わる人々は様々な工夫をしていることなどについて考えるようにする。

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の 技能・表現	社会的事象について の知識・理解
身近な地域の販売活動に携わっている人々の仕事に関心を持ち、意欲的に追究している。	スーパーマーケットやコンビニエンスストアの販売の様子を調べ、販売に見られる仕事の特色や工夫、自分たちの生活や他地域との関連について考えている。	地域の人々の販売の様子について、見学したり調査したりして調べ、買い物カードなどに分かりやすく表現している。	地域には、販売に関する仕事があり、それらは、わたしたちの生活を支えていることが分かっている。

5 小単元の指導計画（17時間扱い）

過程	学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価の観点 言語活動の充実を図る工夫
つ か む	買い物の仕方を話し合う。	・自分の買い物経験	・買い物をする店・品物・日時などを中心に考えさせる。 関 自分の買い物経験から、地域の販売の仕事に関心をもっている。
	買い物調べの結果から、自分の家の買い物の傾向を知る。 ・	・自分の買い物の様子 ・グラフの読み方	・レシートや買い物調べの結果から、何を、どのくらい、いつごろ買ったのか読み取らせる。レシートの中から、様々な情報を取り出し、話し合いをさせる。 関 買い物調べの結果から、自分の家の買い物の傾向を考えている。 ・自分とクラスの買い物の傾向を比較させる。

	<p>買い物調べの結果グラフや地図から、クラスの傾向や疑問点を話し合い、学習問題をつくる。</p>	<p>・地図の読み方</p>	<p>・スーパーマーケットが多く使われている理由を話し合いの中で考えさせる。 グラフを読むことから、情報を獲得させる。 地図を読むことから情報を獲得させる。 グループやクラスでの話し合いを通して、意見を集約させていく。</p> <p>関 買い物調べのグラフやマップを見て、自分たちの買い物についての問いから学習問題をつくらうとしている。 <発言・ワークシート></p>
調 べ る	<p>コンビニエンスストア・スーパーマーケット見学の計画を立てる。</p> <p>・コンビニエンスストアを見学して店の工夫や特色を調べる。</p> <p>見学してきたことをカードにまとめる。</p> <p>カードを分類してコンビニエンスストアではたらく人の工夫について考える。</p> <p>・スーパーマーケットを見学して店の工夫や特色を調べる。 見学してきたことをカードにまとめる。</p>	<p>・見学の仕方</p> <p>・品物の種類・数 ・品質・価格 ・店員の様子 ・買い物客の様子</p>	<p>・調べる観点をはっきりともたせるために、十分に話し合いの時間をとる。</p> <p>技 見る視点、聞く視点を明確にし、見学の計画を立てている。</p> <p>・調べる観点に沿って、店内を見学したり、聞き取りをしたりさせる。</p> <p>技 コンビニエンスストアで働く人々の様子や売り場の工夫などを見学したり、店長さんの話を聞いたりして、具体的に調べている。</p> <p>・店の工夫をできるだけたくさん挙げさせるようにする。 調べたことを自分の言葉でカードにまとめさせる。</p> <p>技 調べてきたことを分かりやすく、カードに書いている。</p> <p>・まとめたカードを用いて、考えを分類していくことで働く人の工夫や努力に気付かせる。 カードを根拠を明らかにして分類をさせる。</p> <p>思 カードを分類することから、コンビニエンスストアで働く人々の工夫や努力を考えている。</p> <p>・調べる観点に沿って、店内を見学させたり、聞き取りをさせたりする。</p> <p>技 スーパーマーケットで働く人々の様子や売り場の工夫などを見学したり、店長さんの話を聞いたりして、具体的に調べている。</p> <p>・店の工夫をできるだけたくさん挙げさせるようにする。 調べたことを自分の言葉でカードにまとめさせる。</p>

	<p>カードを分類してスーパーマーケットではたらく人の工夫について考える。</p> <p>スーパーマーケットとコンビニエンスストアの違いを考える。</p> <p>販売者の工夫を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・品物の種類・数 ・品質・価格 ・店員の様子 ・買い物客の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・価格・品質・品数 ・買いやすさ ・便利さ <ul style="list-style-type: none"> ・販売者の工夫・努力 ・消費者のニーズ 	<p>技 調べてきたことを分かりやすく、カードに書いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめたカードを用いて、考えを分類していくことで働く人の工夫や努力に気付かせる。カードを根拠を明らかにして分類をさせる。 <p>思 カードを分類することから、スーパーマーケットで働く人々の工夫や努力を考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価格や品質・品数、買いやすさ、便利さなど、観点をはっきりさせて比較させる。スーパーマーケットとコンビニエンスストアの違いについて話し合わせる。 <p>思 スーパーマーケットとコンビニエンスストアの違いに気付き、それぞれのよさを考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の人にインタビューをし、消費者のニーズを知り、販売店の工夫を関連付けて、考えさせる。消費者のニーズと販売店の工夫・努力を話し合わせる。 <p>知 販売者は、たくさんのお客さんを集めるために様々な工夫をしていることを理解している。</p>
<p>生かす</p>	<p>買い物レポートを書く。</p> <p>レポートの発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・賢い買い物の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者として、これからどのように買い物をするかを中心に考えさせ、家の人に買い物のアドバイスという視点で書かせる。消費者として、買い物をするときに気を付けることをレポートにまとめさせる。 <p>思 消費者として、これからの買い物の仕方について考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の人に買い物のアドバイスをする。レポートを活用して、発表をさせる。 <p>知 スーパーマーケットやコンビニエンスストアのよさについて理解している。</p> <p>技 スーパーマーケットやコンビニエンスストアのよさについて発表している。</p>

6 本時の学習指導（3・4 / 17）

（1）本時の目標

- ・買い物グラフやマップを見て、自分たちの買い物についての問いから学習問題をつくる。

（2）本時の展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価の観点 言語活動の充実を図る工夫	資料
1 買い物マップやグラフ、表から、気付いたことをワークシートに記入する。	・クラスの買い物の傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体の買い物調べの結果をまとめた地図、グラフをもとに、クラスの買い物の傾向をつかませる。 ・前時に、自分の家の買い物の傾向を考えてあるので、それと比較をさせて考えさせる。 ・学級全体での話し合いを通して、自分の考えを発表させる。 <p>【資】 地図やグラフ、表から、クラス全体の買い物の傾向をつかむことができたか。（発言・ノート）</p>	・買い物調べの結果の地図、グラフ
2 グループで話し合い、傾向を探す。	・スーパーマーケットを利用している人が多いこと	<ul style="list-style-type: none"> ・多く利用されている店とその理由などの意見を交流させる。 ・自分の家の買い物の傾向と比較して、話すことを意識させる。 	
3 クラス全体で話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットを利用する人が多いことに気付かせる。 ・自分の家の買い物の傾向と比較して、話すことを意識させる。 	
4 各自が、調べたいことを考える。		<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ多くの考えを書かせるようにする。 <p>【思】 調べたい課題をもつことができたか。（発言・ノート）</p>	
5 学習問題をつくる。		<ul style="list-style-type: none"> ・児童の個人的な興味から、単元全体を貫く、切実感のある学習問題にする。 <p>【関】 意欲的に学習問題づくりに参加できたか。（発言）</p>	
<p>買い物をする人は、どんなことに気を付けて買い物をしているのだろう。</p>			

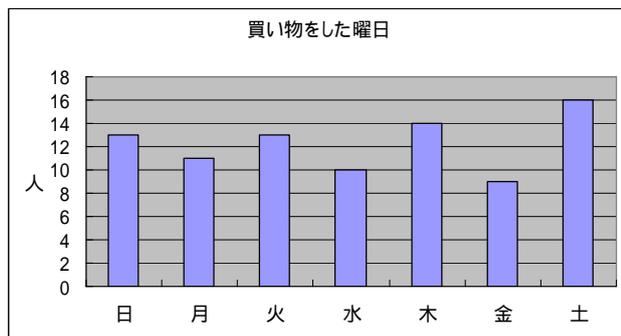
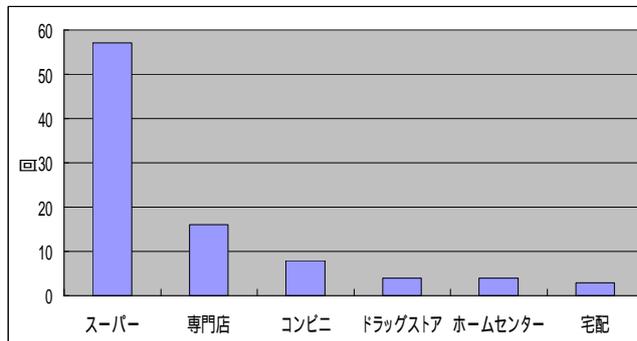
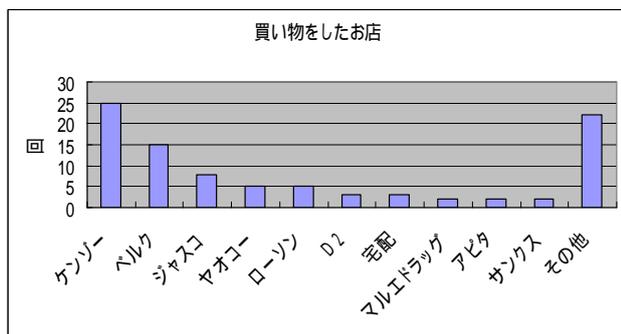
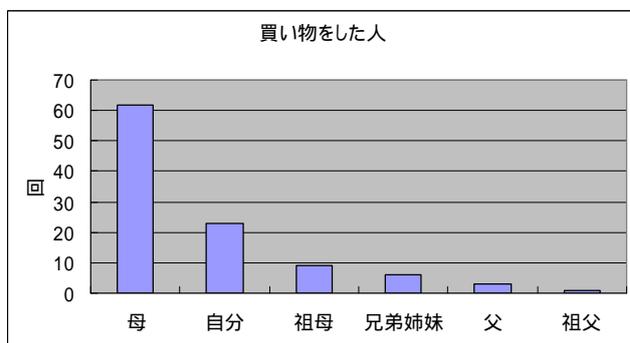
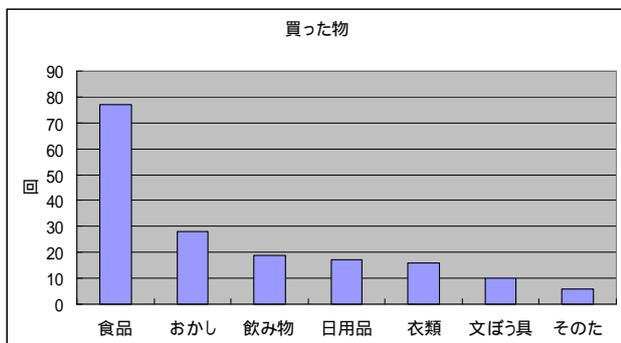
7 実践を終えての考察

(1) 各資料を的確に読み取らせる工夫を行う。

視点 読み取り

社会科の学習において、グラフや地図などの各種の資料を的確に読み取ることは、必要不可欠である。そのため、これらの資料の読み取りを段階的に指導していく必要がある。

そこで本実践では、「つかむ」段階で、以下のようなグラフや地図を活用して学習問題づくりを行った。



これらのグラフから児童は、「食料品が多く買われている」こと、「母親が買い物をすることが多い」こと、「スーパーマーケットでの買い物がが多い」こと、「休日買い物がが多い」ことなどを読み取ることができ、おおむね満足いく結果であった。

しかし地図からは、「コンビニエンスストアは、市の周辺部に多い」こと、「スーパーマーケットは、市の中心部に多い」こと、「コンビニエンスストアの方が、数が多い」ことなどを読み取ることができなかった。そこで、学校の位置を記入させたり、幹線道路に着色させたりすることで、よく買い物をするお店と自宅の位置関係やコンビニエンスストアの立地などに気付かせることにした。すると児童は、「コンビニエンスストアは、家の近くにある」、「スーパーマーケットは、家から離れている」、「コンビニエンスストアは、大き

な道路沿いに多い」などの読み取りをすることができた。

また、ここまでの読み取りは、グラフや地図一つ一つを単独で読み取っているに過ぎず、2つ以上のグラフや地図を関連付けて読み取っているとは言えなかった。そこで、「よく買い物をするお店」のグラフと分布図を見比べることを指示した。すると、「コンビニエンスストアは、家から近いのにどうして遠いスーパーマーケットまで行くのだろう」という疑問をもつ児童が増えた。3年生という発達段階においては、2つ以上の資料を関連付けて読み取るためには、教師の適切で丁寧な指導や助言が重要であることが分かった。

以上のことを考えると、資料の精選を図り、資料を加工させて読み取らせたり、読み取りの視点を明確にさせたりすることでの確かな読み取りができるようになり、複数の資料を関連付けて読み取りをさせるような場合には、さらに教師側のより丁寧な指導や助言が重要であると考えられる。

(2) 意見交換の場や方法の工夫を行う。

視点 討論

話し合い活動の主な目的の一つは、多面的で多角的な見方や考え方を育成することである。話し合い活動を行うことで、友だちと意見交換をし、友だちの意見と比較することで、自らの考えを深めたり、修正したりすることができる。さらに、グループやクラスの意見をまとめ、構築していくことも可能である。そのためには、根拠を明確にして自分の考えをもつように指導することが必要である。また、話し合いの視点を明確にして話し合いを始める必要がある。

そこで本実践では、話し合いの場面を、学習問題をつくる場面、見学してきたことを分類する場面、コンビニエンスストアとスーパーマーケットの違いを考える場面、販売者側の工夫と消費者側のニーズを考える場面に設定をした。

学習問題をつくる場面

話し合う人数... 3人
目的...自分の読み取りの正しさを確かめること
内容...グラフや分布図から読み取ったことを発表し合う



ここでは、それぞれが読み取ったことを発表し合い、読み取りの正確さを確かめることを目的として話し合いを行った。その後、グループで話し合ったことを学級で確かめ合い、学習問題を考えた。3人という人数で行ったことで、自分の考えをスムーズに話すことができた。

見学してきたことを分類する場面

話し合う人数... 5人
目的...見学して得た知識を増やすこと
 見学して分かったことを分類すること
内容...見学してきたことを発表し合う
 見学して分かったことを分類する



ここでは、まず、コンビニエンスストアで、見てきたこと、聞いてきたことを中心に発表を行った。自分が見学して分かったことを友だちに広げることができた。また、聞く側も自分が不足していたことが分かり、知識の補充をすることができた。その後、それらを分類させた。しかし、その際には分類の視点を示さず、そこから考えさせるようにしたが、グループごとに視点が違い、クラスでまとめる際に苦労をすることとなった。

次に、スーパーマーケットの見学後も同様の流れで学習を行った。このときは、分類の視点がはっきりとしていたので、スムーズに行うことができた。

コンビニエンスストアとスーパーマーケットの違いを考える場面

話し合う人数... 3人

目的...コンビニエンスストアとスーパーマーケットの違いを考えること

内容...コンビニエンスストアとスーパーマーケットの相違点を出し合い、それぞれのよさをグループごとに一本化する

ここでは、コンビニエンスストアとスーパーマーケットの工夫において、似ているところ、違っているところを各自で考えた後に話し合いを行った。この頃になると、話し合いが活発に行われるようになっていた。「自分の考えを比べながら聞こう」と投げかけたことで、「僕が考えていたことと さんの考えていたことは、ここが違うね」という児童のつぶやきも聞こえていた。さらに、出た意見をもとに、3人の考えを1つにまとめていく際には、「この部分は、 さんの考えがいいけど、後半は、私の考えの方がいいよ」ということで、3人の考えの中から選ぶだけでなく、2人、3人の考えを合わせてグループの考えとしてまとめることができるようになっていた。

販売者側の工夫と消費者側のニーズを考える場面

話し合う人数...クラス全員

目的...販売者側の工夫と消費者側のニーズを考えること

内容...販売者側の工夫と消費者側のニーズの相違点を出し合い、販売者側の工夫が、消費者側のニーズを受けていることに気付く

ここでは、クラス全員での話し合いを設定した。事前に、家の人から「お店や商品を選ぶ基準」について、聞き取り調査を行った。話し合いの中で、それぞれの家でその基準が違うことに気付く児童が多数見られた。そして、事前にまとめておいた販売者側の工夫を提示すると、消費者側のニーズをほぼ網羅していることに気づき、販売者側の工夫に驚いていた。

これらの話し合い活動を通して見えてきた成果は、話し合いの視点を明確にしなければ、効果的な話し合いを行うことができないということである。すべてを児童に任せてしまうと、少人数で行っているうちはよいが、人数が多くなればなるほど考えが多様化し、まとまりがなくなってしまう。多くの人数で話し合いをスムーズに行うためには、話し合いの視点をしっかりと絞って行うことが重要である。また、はじめは資料のような話し合いの進め方を提示し、それに従って話し合いを進めていたが、回を重ねるごとにスムーズに話し合い

を行うことができた。したがって、繰り返し行うことの重要性も見えてきた。

しかしながら実践からは、話し合いに参加する人数が多くなったときの児童一人一人の発言回数への配慮やお互いに根拠を提示して話し合うことなどの課題が残った。

資料 <話し合いの進め方の例>

これから、_____ についての話し合いをします。
まずはじめに、_____ さん、自分の考えを発表してください。おねがいします。
ありがとうございました。何かしつもんはありませんか。
次に、_____ さん、自分の考えを発表してください。おねがいします。
ありがとうございました。何かしつもんはありませんか。
さいごに、_____ さん、自分の考えを発表してください。おねがいします。
ありがとうございました。何かしつもんはありませんか。

全員の発表が終わりました。自分の考えとくらべて、同じ所、ちがう所はありましたか。
意見をまとめます。_____ はんの意見は、_____ でいいですか。
これで、_____ についての話し合いを終わりにします。

(3) 自分の意見を論述させる工夫をする。

視点 論述

学習したことをしっかりと定着させるためには、獲得した知識を自分の言葉で再構築し、文章化させることが重要である。

そこで、本実践では「生かす」段階において学習してきたことを、「消費者として」という立場を明らかにさせてから、「これからの買い物」についてのレポートを書かせることとした。レポートを書かせる際には児童に対して以下のようなポイントを示して記述するように指導を行った。

- 学習して分かったこと
- 商品を選ぶときのポイント
- お店を選ぶときのポイント

完成したレポートを分析してみると、それぞれの児童が自分なりに商品を選ぶときのポイントやお店を選ぶときのポイントを論述することができた。しかし、レポートの内容を詳しくみてみると、なぜそういったポイントを指摘したのかという自分の意見の根拠などが明確に示されていないものもあり、これまでに学習したことが十分に生かしているとは言い難い部分もあった。

以上のことから、自分の意見を論述させる際には、自分の立場や論述の視点を明らかにさせ、さらには根拠を明らかにさせた上で論述させることが重要であることが分かった。

(4) 調べたことをもとに自分の考えを構築する工夫をする。

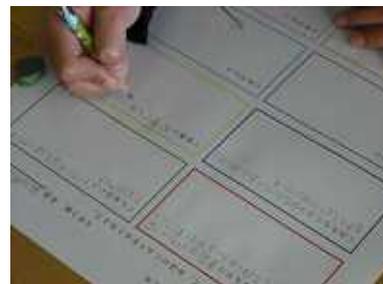
視点 解釈

調べたことをもとにしてそれらが「どのような意味をもっているか」、「どのような意義のもとで行われているか」ということを考えなければ、本当の意味で「分かった」ということにはならない。そのためには、調べたことを分類したり、関連付けたりして自分なりに理解し、判断する必要がある。

そこで、本実践では「調べる」の段階において、話し合い活動に入る前に、調べたことを分類したり、比較したり、関連付けたりする個人で考える時間を大切にしてきた。まず、コンビニエンスストア、スーパーマーケットの見学後、見てきたこと、聞いてきたことをいくつかの視点に基づいて分類をさせた。前述の通り、コンビニエンスストア見学のときは、分類する視点を個人で考えさせたために、話し合いやクラス全体でまとめる際に煩雑になってしまったが、スーパーマーケット見学後は、あらかじめ視点を整理し、分類させたことで子どもたちの思考がスムーズに行えた。3年生の段階では、こうした工夫も重要であることが分かった。

分類のための視点は、以下の通りである。

- ・品物の種類・数
- ・売り場の工夫
- ・働く人の様子
- ・お客さんの様子
- ・価格
- ・営業時間
- ・品質、



次に、コンビニエンスストアとスーパーマーケットの工夫を比較させる活動では、似ている工夫と違っている工夫を明確にさせ、それぞれのよさを考えさせた。その際にも、視点を統一することで、話し合い活動につなげられる工夫をした。

最後に、販売者の工夫と消費者のニーズを関連付けて、販売者の努力に気付かせる学習を行った。「お店を選ぶポイント」、「品物を選ぶポイント」を消費者の代表である母親にインタビューさせることで、消費者のニーズを知り、これまでに学習してきた販売者の工夫と関連させることで、販売者が消費者のニーズに答えられるような工夫や努力をしていることに気付かせた。

これらの学習を通して、3年生段階の子どもたちに、分類、比較、関連付けをさせる場合には、分類するポイント、比較するポイント、関連付けるポイントをしっかりと教師が示す必要があることが分かった。それぞれのポイントを示すことで、子どもたちが解釈をスムーズにする手助けとなる。